

麦酒醸造所(岡山市北区北方)は、備前市日生町産の力キを使った黒発泡酒「日生牡蠣」を、県産原料で再現した。麦汁を煮沸する

岡山県産の力キを使って醸造した「日生牡蠣黒」



4200円。同醸造所や吉備土手下麦酒専門店たのたの庵(岡山市中区藤崎)などで販売している。(古川和宏)

31日、川崎汽船(東京)に引き渡した。全長約366m、幅約51m。船首部は風が

規格品投入 拡販目指す

マイクロリアクター

精密部品製造のマックエンジニアリング(倉敷市玉島乙島)は、化学薬品の研究開発に用いられる超小型プラント「マイクロリアクター」の売り込みを強化している。目的別に個別注文を受ける従来品より価格を抑えた規格品を投入し、東京、大阪に営業スタッフを配置。医薬、化粧品メーカーなどへの販路拡大を目指す。(伊東圭一)



マックエンジニアリングが製造する規格品タイプのマイクロリアクター(手前の二つ)と、ポンプなどをセットした実験ユニット(奥)

マックエンジニアリング

マイクロリアクターは、マイクロメートル(1分は千分の1ミ)単位の微小な空間で複数種類の液状薬剤を化学反応させる。試験管やミキサに比べ微量の薬剤で実験でき、爆発の危険も少ないため大学や企業の研究部門などで利用が広がっている。通常は実験目的ごとに設計するオーダーメイドだが、同社は多目的に使える規格品を開発し、昨年6月に市場に投入。縦6秒、横4秒、高さ2・3〜2・6秒の箱型で、内部の部品を交換することで薬剤の混ぜ方や反応時間を変えられる。構造の簡略化で本体価格は20万円台と、自社オーダーメイド品(50万〜60万円台)より低くした。営業スタッフは、これまでオーダーメイド品を納入していた大学などに規格品が好評なこと

価格抑え多様な実験 医薬、化粧品向け

を受け、昨年11月に東京と大阪に各1人を置いた。3月からは、プラント本体に薬剤を送るポンプをセットにして実験ユニットにするなど売り方も工夫している。同社によると、マイクロリアクターの入門機として注文が増え、印刷塗料の開発向けでも引き合いがあるという。5月には、薬剤の混ぜ方のバリエーションを増やしたタイプも発売する予定。2017年にマイクロリアクター関連で年1億円の売上高を目標とする。将来は、顧客がマイクロリアクターで実験できるシミュレーションを本社に設けることも検討中。小谷功社長は「幅広い分野にPRし、新たな主力事業に育てたい」と話している。マックエンジニアリングは、金型や産業機械部品などが主力。1981年設立。資本金2600万円。売上高1億3500万円(14年12月期)。従業員16人。

を受け、昨年11月に東京と大阪に各1人を置いた。3月からは、プラント本体に薬剤を送るポンプをセットにして実験ユニットにするなど売り方も工夫している。

今後、別の2工場でも、さらに大きい2万個積みを持つ3隻建造する予定という。



家野田正明氏(65)が手掛けた。同社は1911年、織機製造から自動車部品などの精密加工に使用される研削盤を専門としている。2011年の創業10周年、13年の本社工場拡張などを記念して、箕島町は、制作を依頼。野田氏が本社庭にミニ「古里の企業が芸術、文化に親しむきっかけ」を設置。6日に除けに「なれば」と応諾し、ものづくりの情熱や未来に羽ばたく力強さを表現した作品を前に、嶋谷憲和社長(54)は「社員一丸で新たな歴史を築いていく可能性」。同市出身で「米国ニューヨークを拠点に活動する現代美術

点に活動する現代美術(伊東圭一)